

## 鏡神社（1/2）

～「源氏物語」にも登場する「松浦なる鏡の神」の社～

鏡字宮ノ原にある。祭神は、一の宮は息長足姫尊（おきながたらしひめ）すなわち神宮皇后（じんぐうこうごう）を祭り、二の宮は藤原広嗣（ひろつぐ）を祭る。

伝説によれば、神宮皇后が松浦山（鏡山）に登って天神地祇を祭り、靈感によって鏡を奉納したことに始まるといい、天平10年（738）になってはじめて祭礼がいとなまれたという。藤原広嗣が祭られているのは、大宰少弐に左遷された広嗣はこれを不服として、天平12年（740）に北九州の豪族・農民ら一万人余を率いて反乱を起こした。だが、大野東人（おおのあずまぶ）を大將軍とする追討軍に敗れ、肥前国松浦郡値嘉島（ちかのしま）で捕えられ、松浦の地で非業の最後を遂げたことによるのであろう。また『松浦廟宮本縁起』には、天平17年（745）吉備真備に鏡明神を祀らせ、天平勝宝6年（754）その吉備真備が奏して神田を鏡社の神宮寺の無怨寺（むおん）に寄進したとある。

『吾妻鏡』文治2年（1186）12月10日の条には、草野次郎大夫永平を鏡神社大宮司に任せられ、以降草野氏は代々鏡神社ならびに無怨寺宮の大宮司となって広大な社領を有し、戦国のころには大村（玉島）の鬼ヶ城に城塞を構え勢威をふるった。だが、豊臣秀吉により波多氏とともに滅されてしまった。

『東松浦郡史』に見る「鏡神社々記」には、一時は「社の境内は八丁四方なり、宮殿、七堂伽藍、惣廻廊、釈迦堂、毘沙門堂、不動愛染両明王、其他末社数多し、鐘楼門、山門、二王門、一二三の華表（鳥居）、御供殿・・・」などがあったというから、その盛況を想像することができる。草野氏の滅亡とともに社領も減じ、殿堂も衰えたであろうが、なお当地方第一の大社としての貫録を示し、領民の崇敬を集めた。しかし明和7年（1770）大火にあい、社殿・神宝を焼失してしまった。その後いまだに往時の復興はみしていない。

～2/2へつづく～

分野 歴史

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



唐津でもっとも古い神社とされる鏡神社  
（『唐津探訪』より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『日本の神々：神社と聖地 /九州』谷川健一編  
発行白水社
- ◆『東松浦郡史』  
東松浦郡教育会編  
大宰管内志
- ◆『浜玉町史』  
浜玉町教育委員会
- ◆「歴史」の部「鏡神社」  
参照

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html)

鏡神社（2/2） ～「源氏物語」にも登場する“松浦なる鏡の神”の社～	分野	歴史
	地域	全域
<p>～1/2からつづく～</p> <p>なお鏡神社について『大宰管内志』には「この社の鳥居は東表にあり・・・鳥居の内に入って見ると鏡神社は南向きである・・・板櫃神社（二の宮）は正面少し奥にあり東向である。社の南・西・北の三方は古木が立ち茂っている。社僧は2人（宮司坊・御燈坊ともに真言宗）、社家も2人の多治見氏、坂本氏なり、大祭は9月9日にあり（古くは8月25日草野大宮司が執行した）昔は此の日に神輿が虹の松原まで御幸した。古くは人が群衆したが、幕末には衰退したという。</p>	◎地図・写真・統計資料など	
	◎引用・参考文献（出典）	
◎エピソード・伝承・うんちく など	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆『日本の神々：神社と聖地 /九州』谷川健一編 発行白水社</li> <li>◆『東松浦郡史』 東松浦郡教育会編 大宰管内志</li> <li>◆『浜玉町史』 浜玉町教育委員会</li> <li>◆「歴史」の部「鏡神社」 参照</li> </ul>	
<p>当社には国指定重要文化財として絹本着色揚柳観音像（けんぼんちゃくしよくようりゅうかんのんぞう）がある。この絵は、朝鮮半島高麗時代至大3年（1310）に忠宣王のそばに居て淑妃の称号をもつ人が、宮廷画師の金祐を監督とし8人によって画かれたものであり、日本へどのようにして伝来したかは不明であるが、明徳2年（1391）には僧良賢によって鏡神社に寄進される。</p> <p>画面は1枚絹で、縦419.4センチメートル、横254.2センチメートルにもおよび、高麗仏画の遺品では最大のものである。</p> <p>観音像は左足を右膝上に置く半跏（はんか）の姿で、岩に敷かれた草の葉状のものの上に坐し、右足を蓮華座にのせている。画幅右下には童子が合掌して観音を拝む姿を描いている。</p> <p>画面は良質の金泥や朱・群青（ぐんじょう）・緑青（りょくしょう）などの絵具で豊かな彩りをなし、具色（白色絵具を混ぜた淡い色）の使用によって優美さを出し、画絹の裏に彩色を施す裏彩色の技法によって絵具の明度を増して華美な色調を保つように気が配られている。また、透きとおった白いベールには雲や鳳凰が金で丁寧にあらわされ、朱色の裳には白の亀甲文つなぎ（6角形の繰り返し）が細やかである。</p>	<p>◎もっと詳しく知りたい方は</p> <p>唐津市近代図書館へ お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： <a href="http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html">http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</a></p>	